

サマリー

## 米国・カナダ以外のシェールガス開発状況

化石エネルギー・電力ユニット ガスグループ

橋本裕\*、福岡誠史\*\*、岡村雅史\*\*\*、居石裕幸\*\*\*、堀池茂和\*\*\*

米国のシェールガス開発の飛躍的な進展は、同国内の天然ガス需給を緩和させ、市場に大きな変化をもたらした。シェールガス革命と呼ばれるこの変化は、米国向けに予定されていた LNG の多くを欧州やアジアに向かわせ、伝統的な石油リンクによる天然ガス価格決定方式に見直し議論を巻き起こすなど、世界の天然ガス市場にも間接的に大きな影響を与えている。さらに 2015 年には米国産 LNG の輸出が開始される予定であり、米国のシェールガスが世界の天然ガス市場に直接影響することになる。

技術的に回収可能とされる世界のシェールガス資源量は約 200 兆 m<sup>3</sup> と推定されており、大きなポテンシャルを期待されている。賦存地域も世界に幅広く存在しており、各国のシェールガス開発が進めば、世界の天然ガス市場はさらに変化するであろう。しかし、シェールガス開発が活発化するか否かは、地質条件やインフラの状況、政府や企業の取り組みなどによって大きく異なる。米国で大規模な開発を可能とした諸条件が、他の諸国では揃っておらず、いずれの国でも本格的な開発は 2020 年以降と予想される。

本レポートでは、米国、カナダ以外のシェールガス開発について、近年顕著な動きが観察される主要な 15 ヶ国（中国、インド、インドネシア、オーストラリア（豪州）、英国、フランス、ドイツ、ポーランド、ロシア、ウクライナ、アラブ首長国連邦（UAE）、サウジアラビア、アルジェリア、メキシコ、アルゼンチン）について状況をまとめる。

お問い合わせ : report@tky.iecej.or.jp

---

\* （一財）日本エネルギー経済研究所 化石エネルギー・電力ユニット ガスグループ 研究主幹

\*\* 同 主任研究員

\*\*\* 同 研究員